

めだかの学校だより

平成11年2月1日

第23号

学舎 いなさ自然休養村

<つみくさ>

事務局：引佐郡引佐町

東久留女木 472-111

TEL 053-545-0381

校長訓話

第二十三回校長 米田 寛

「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。夜の底が白くなった」ご存じ川端康成の「雪国」の冒頭です。私の校長就任も、この名作と同じように始まりました。「つみくさの長いトイレから戻ると校長先生であった。頭の中が白くなった」というわけで、雪国風に誕生した校長から改めて新年のご挨拶を申し上げます。めだかの学校の生徒諸君、明けましておめでとございます。今年も全員、皆勤賞目指して頑張ってください。

さて、この「めだか通信」が、お手許に届くころにはもうお正月も終わっていることと思います。ところで生徒の皆さん、今年のお正月はお餅を何個食べましたか？校長先生は三個です。「ハイ！十個です」などという人はめったにいないのでは無いでしょうか。昔のお正月は毎朝「お餅何個？」と、お雑煮に入れる数を聞いて回るのが子供の役目だったのは我が家だけでしょうか。年末に切っ

た餅を、木の箱一杯にいれ、それをカビが生える前に食べきってしまったのですから、他に食べるものがなかったのかなあなどと思ってしまう。で、校長先生、今年の正月に何を感じたかといえますと、最近の餅は昔ほど延びなくなったのではないかと、焼いてもプツと膨らむこともなく、お雑煮の餅もすぐ切れてしまう。餅らしくなくなってしまうのではないかと、早い話が美味しくなくなってしまうのではないかと、そういえばおせちに入っている蓮根も糸を引かなくなった、糸を引かない蓮根なんて、神原さんのいないめだかの学校みたくないものだ。などと新年早々怒ってしまったのです。

一昨年、中央アジアのキルギスタンへ行く機会がありました。ソ連から独立したばかりで、高速道路も新幹線もネオンサインも無い国でしたが、空気は澄みきって夜空に輝く星は感動的でさえありました。そして、なにより素晴らしいのは、キルギスの人達でした。「旅人は神様からの贈り物」そういつて遠い国からきた私達のために自分ができる最高のもてなしをしてくれました。かつては日本でも普通に目にしていたはずの光景が、

非常に新鮮に感じられました。良く延びるお餅と蓮根の糸、夜空の星と人の優しさ、私達は豊かさとして引き換えに大切なものを失ってしまったような気がしてなりません。環境は急激なスピードで人間を変えてしまいます。「遅すぎた」なんてことにならないうちに、本来の姿に戻れるようめだかの学校の皆と学んでいきたいと思えます。



めだかの学校伝言板

..... 第23回めだかの学校を開校するので出席しなさい。開校日/平成11年3月5日(金)6:20PMより

校長/米田 寛 教頭/藤原 俊子
給食係/階堂隆夫・横山浩史・鈴木武史・名和紅
野田契子・渡辺三ツ子・久米かよ子
富永セツ子・藤田秀子

用務員/中嶋 豊
受付/尾上美智子・鈴木知賀男・井下美乃

時間割

- 1時限目=松本芳廣先生
生活科「まじめ人間から破壊人間になったわけ」
- 2時限目=牧野裕子先生
理科「破壊人間をまじめ人間に見せる色の不思議」
- 3時限目=加茂光廣先生
社会「カモがネギをしょってきた」

(注) 給食当番を決めたのですが、メモが紛失し、名前を表示された生徒、欠落している生徒がいます。欠落している生徒はPM4:00に学舎へ集合して下さい。

<学舎> 静岡県引佐郡引佐町奥山1737-286
いなさ自然休養村「つみくさ」
☎ 053-543-0321 (開校日のみ)

めだかの動き 泳ぎ回るめだかたち

しずおか未来づくりネットワーク交流会 「駿河路に参加して」

しずおか未来づくりネットワーク交流会
議1日駿河路(同実行委員会・静岡県主催)
が昨年11月27・28の両日、清水市三保園ホ
テルを主会場に開かれ、県内で地域づくりに
参加している約二百人が参加。我が「めだ
かの学校」生徒も大勢集い交流の輪を広げ
ました。

東海道で結ばれた清水市と由比、蒲原、
富士川の庵原郡三町をステージに行われ、
初日の分岐研修では、郡内の「庵原夢倶楽部」
会員「めだかもいづばい」が三町の観光
スポットや地域づくりの拠点の案内役を
務め、私もベンをおしゃもじに持ち替え、郷
土の自慢料理づくりに腕ふるいました。

「みてくりよーおらんちの」このテーマ
どおり、我が庵原三町と清水市は、海の幸
あり、山の幸あり、美しい富士山と富士川、
駿河湾、そして人情厚い人々と、すべてが整
った贅沢なエリアで大きな可能性を秘めた
発展途上の地域です。皆様の応援を請う御
期待、頑張ります。

同交流会議1日駿河路には、榊原幸雄氏
はじめ上嶋裕志、加茂光廣、照井泰子、伊藤
茂男、本嶋慎郎各氏、大須賀町横須賀俱
楽部の鈴木武史、竹内誠人、深谷孝、中川泰
氏ら、そのほかにもあちらこちらのめだかが
参加し、メイン会場の清水市三保園ホテルで
行われた交流会と夜なべ談議は、持込みの
土地の土産をつまみに夜中まで大いに盛り
上がりました。

地域づくりは地域への愛着と情熱をもつ
た人と人とがネットワークし、機会をとらえ
ては触発し合い、楽しく続けていくことなん
だとうなずけた集いでした。

(榊原幸雄 生徒)

(追伸)

夜なべ談議で、清水市三保の三保会のメンバ
ーと意気が上がり、これからの交流と、三保
の松原で秋に開催される「薪能」に招待さ
れることになりました。定員制限と努力奉
仕も含まれておりますが…。

(榊原幸雄 生徒)

【特集・民俗芸能】

◆中世の面影を止める

三遠信山里のまつり

三遠南信の正月は、霜月と予祝の祭りが
入り乱れ、日頃静かな村里が時ならぬ熱気
に包まれて明ける。山間の村むららのどこかで、
毎夜のように山の神や天狗や鬼が訪れ夜通
しで村人と乱れ舞い、年に一度の神々との交
わりが絶頂に達する二晩である。

この地方の正月が目を引くのは、霜月と
予祝、生命復活と農始め言祝ぎと、意味を
異にする神迎え祭りが同時に行なわれると
ころで、奥三河の花祭り、富山の御神楽、大
河内の霜月、向方のお潔め、坂部の冬祭りは
皆湯立て神楽を軸とする霜月系、それに寺野
川名のひよんどり、懐山のおこない、鳳来黒
沢の田楽、設楽のしかうち祭りは何れも余
祝の祭り。2日から5日にかけて、双方を居
ながらに見られるところが民俗芸能の宝庫
と言われる所以がありそうだ。この場面は
正月だけ、月日の移りを月の満ち欠けで計
る太陰暦によれば、正月はまだ冬のうち、神
子に生まれ清まつて新しい春を迎えること
を本義とする霜月祭りは、松を下して小正
月の準備にかかる5日を境に、パツタリと幕
を閉じる。

◇遠山の霜月祭り

野山が一斉に枯れ果てる霜月を、生命力
が最もいなくなる時と見た里人は、ここでこそ
神々の力を借りて、生きる活力の蘇りを祈
り上げようというのが遠山の霜月祭り。八

百よらずの神々に湯を献じ、神慰めの供宴
を延々と夜が明けけるまで、面形舞いが佳境
に入る夜半過ぎから徐々に熱気を昇らせ、
時空を超えた夢見の時は、終わつてみればア
ツという間の後味を残して幕が下ろされる。
祭りの起源は修験道が発達した鎌倉時
代から、山里の厳しい暮らしのなかで自然に
育まれた素朴な山岳信仰の上に、修験者が
都や伊勢から運び込んだ神事や神楽舞いを
重ね合わせて形作られ伝えられてきたと言
うのが定説。厳格な古式を今に受け継いで、
正に中世の時代を目の前に見る思いがする。

◇奥三河の花祭り

修験道の両部神道の色調を最も色濃く
伝えるのが奥三河の花祭り。湯釜の上の神
の依りしろから舞い具に至るまで全てが彩
り鮮やかに、遠山の白と色とはがらりと趣を
異にする。元々災厄祓いの願かけ家を花宿に、
祀りごとの全てが、生まれ清まつてを擬死再
生で流れるあたり、修験道の残形を随所
に垣間見る思いがする。

面白いのは主役を務める鬼が悪の象徴で
無いこと、亡者を白山から救い出す山見鬼、
悪霊を追い払う袖鬼や茂吉鬼、祭りの鎮め
を司るのもまた鬼。伴鬼を従えた役鬼が次
から次へと、やがて村人を興奮のつぼに捲
き込んで、祭りはクライマックスに達する。一
口に花祭りとは言え村夫々にどこが違う。
華麗に跳ね回るかと思えば重々しく荘厳に、
そこで味わう恍惚感こそが花祭りの真髄だ
とも言える。

◇坂部の冬祭り

「カエセヤカエセ 清メテカエセ」4人の稚
児が舞う花の舞いを囲んで、神子や村人が
こぞとばかりに一斉に囃し立て、社を割れ
んばかりの熱気が包み込む。隠れ里坂部の「冬
祭り」に見る花の舞いは三河花祭りとは大
分趣を異にする。神子が天竜川で裸ぎをす
るのが4日の午後3時、山陰が暮れなずむ
時の流れに沿って、神招きと湯立てが垣々と
繰り返され、村と子孫の永代繁栄の立願神
事が、神子に新生する舞い上げ儀式を折込

んで夜半を過ぎて尚延々と、夜が白む頃に
面形舞いが登場し、一段と盛り上げながら
5日の昼頃にやがて鎮めを迎える。なんと、
夜を挟んで丸一日、二睡の間もなく祭事を努
め上げる神子たちの維持力に、まず度胆を
抜かれる。

ここでも鬼が見せ場を飾る。三河と違う
のは怖い天公鬼・青公鬼の呪法を封じため
欄官が問答の末、呪力の具である棒と杖を
取上げ、鈴と扇に持ち替えさせ、舞衣を着せ、
善鬼に恭順した鬼たちを「カエセヤカエセ、
清メテカエセ」の神子の唱和で退散させる。
生まれ清まつて霊力をもった神子の力を鼓
舞しつづ、正に霜月系のしんがりを飾るに相
応しい祭りと言えよう。

◇水窪西浦の田楽

古式と古格を頑なままでと言えれば、祭り
を仕切る役割から能役の全てが世襲で受け
継がれている水窪「西浦の田楽」がある。祭
りの執行は別当家中心に惣庄屋・公文衆の
家と決められ、別当と能衆の神酒作りから
して、切り火を点ける役、神を集める公文衆、
神を釜に入れて煮込む役、更には楽堂に敷
く莫塵作りまで代々世襲。祭り本番は地能
とはね能の二部構成で、月の出に開始を合
わせ、終わりは日が昇るまで。見所は夜半過
ぎから朝にかけて、地能の終盤を飾る君の舞
田楽能。仏の舞が観衆を魅了するうちに、こ
く自然に面形のはね能へと流れが移り変わる。
がらりと座を改めて、神返しの意味を持
つ鎮めの儀式が厳粛のうちに、この時ばかり
は何者の侵入も許さない厳格な仕切られる。
祭りは言う、戒律が厳しければきびしい程、
興奮と陶酔が高まるのだと。旧暦の1月18
日、今年3月5日が祭礼日である。

◇寺野ひよんどのりの紹介

昔から行われている郷土芸能がここにも
残っている。県指定無形文化財であったのが、
三年前より国指定重要無形文化財寺野ひ
よんどりと改められた。
この祭礼は、始められたのは明らかではないが、

(松田不秋 生徒)

観音堂に残る棟札・古文書等によると元龜天正頃と推定され、尚、寺野を開いた伊藤刑部祐雄は、戦国時代、三河より来ていることが判明しており、三百年以上の歴史を有している。寺野ではこの祭りのことを俗に「三日堂」と称えることが多く、他に「ひよんどり」「おこない」「鬼踊り」とも言われている。昔は祭りに関係する家を講衆といひ、囃し方、舞手も大体家伝襲的に行われてきたが、昭和36年に保存会(現在は村全員が会員である)が結成され、比較的昔の型をくずさず、実施されている。祭りは、正月3日午後2時より6時までの4時間程度である。自治会44戸、小さな集落であり、地形は決して平坦とは言えず、小山が、幾つか重なり合つて立木の生い茂つた山々に囲まれた村とお話しする方が望ましいだろう。正月の雪が降りしきる3日の午後、寺野の山中、粉雪が舞う中で、主催者が小鈴を降り、りゅうりゅうとした笛の音が静々と山の中へこだまして行く頃、白い息をはずませ、コートの手を立て、祭りを見る為が集まつて来る人達がいる。テレビラジオの普及している時代に年々数を増して来ているというのは、何か人間を寄せ付けるものがあるのだろうか。現在残っている舞は十三番である。獅子舞、鬼の舞は、後半のクライマックスで、鬼の太郎次郎三郎がたいまつ火を乱打する様は、最高の見所である。

(伊藤弥兵衛生徒)

◇引佐町にはもう一つ川名のひよんどりがある。こちらは、正月4日午後2時ごろから「シンウチ」神事からはじまり、松明をもつたタイトボシが堂の前に立つて水ごうりしたヒドリと呼ばれる若者を松明であぶるよりに振りかざす「若者の水ごうり」があり、午後11時ごろまで各種の神事が行われる。寺野のひよんどりと共に国の重要無形文化財である。

(榊原幸雄生徒)

イベント情報

遠州に春を告げる 「三熊野神社大祭」

とき：4月2日(金)・3日(土)・4日(日)

今年もまた遠州横須賀に祭りの季節がやってきます。桜吹雪を合図に13台の祢里(ねり)がくりだし、三社祭礼囃子の名調子にのって狭い城下の町並をねり歩きます。最大の見どころは4日、夜9時の千秋楽、13台の祢里が神社境内に揃い、クライマックスを迎えます。

「遠州の祭りは横須賀に始まり、森に終る」、遠州地方に祭りシーズンの到来を告げる三熊野神社大祭、ぜひ皆様でお越し下さい!

(P.S.)今年5月15日(土)、16日(日)の東京神田祭に横須賀の祢里2台が里帰り参加します。前回の特別参加(平成8年)がきっかけとなり、本家の神田祭関係者を中心に江戸天下祭の復活(山車の曳きまわし)を望む機運が高まりました。今回は小江戸、川越(埼玉県)の山車も参加予定。百数十年ぶりに新・旧江戸型山車が大江戸に復活することになります。

(鈴木武史生徒)

桜吹雪の下で練り歩く

細江町「姫様道中」へのお誘い

4月3・4の両日、細江町の都田川桜つみみの下で姫様道中が開かれます。めだかの生徒の参加も出来ませんが、女性はず39歳まで。男子は自由と今年から年齢制限が女性の場合出来ました。昨年までは40歳以上も参加出来ました。町民から化け物道中との声があり、残念ながらめだかの生徒も制限に掛かる人が多いと思われれます。2月から受け付けますのでご参加下さい。ただし、姫様は20歳の女性に限られます。駕籠担ぎの奴は食べ放題、飲み放題で日当まで用意されています。(上嶋裕志生徒)

トピックス

☆達ちゃんの大坂だより

アイデアいっぱいの大坂をもっと知ってみたいと思っている。

「大坂キタの街中に赤い大観覧車登場」!
大阪の玄関口「JR大阪駅」。ここは「梅田」ともいひ、阪急・阪神の各私鉄の始発駅があり、「キタ」と呼ばれる繁華街が広がる。

(注)村松達雄さんは、森町役場の職員ですが、昨年4月より静岡県大阪事務所に派遣されています。楽しい大坂だよりを毎月発信してくれれます。

(榊原)

この中心地に「HEP FIVE(ヘップファイブ)」が、昨年11月にオープンした。HEPとは、阪急エンターテインメントパークの略で、この施設の目玉は、直径が75mの大観覧車である。大阪に来たならばまず目に付く一等地にあり、最上部の高さが106mと大阪湾まで眺望でき、一周約15分で大坂の空中探索が楽しめる。大阪・天王寺にあるフステイバルゲートには、ピルの谷間を突っ走るジェットコースターがあり、ど肝を抜かれたが、今度は駅前都心に大観覧車である。まさにアツと言わせる大阪的な発想である。

☆山名れい子さん、社会功労賞受賞
静岡新聞、SBS静岡放送が主催する「平成10年度社会功労賞」にめだかの生徒の山名れい子さんが受賞する。この賞は、社会に欠かせない職場で日夜献身的に地道な活動を続け、県民生活を支えている人たちを顕彰するもので、保健婦賞を受賞した。山名さんは、岐阜県の病院で看護婦を2年間務め、その時筋ジストロフィーや脳性まひの子どもたちと接し、「在宅治療している子どもたちを訪れた時に生活は大変だが生き生きとしている姿に驚き、在宅ケアに携わる仕事に就きたい」と保健婦の道を目指した。昭和52年に細江町役場に入り、保健婦活動をスタート、以来20年以上にわたり、「子どもたちが生き生きと暮らせる社会づくり」を信条に活動している。めだかの学校でも、先生として授業を受けもった。不健康な日常生活を送っている方、早急にアドバイスを受けるといいですよ。

(榊原)

メダカ春秋

◆「ネイチャーゲーム」のこと

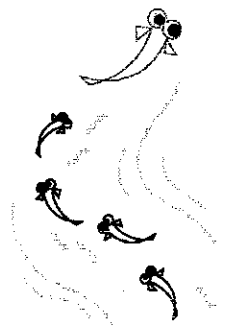
誰もが生まれながらに持っている「五感」で自然を体験し「自然への気付き」を目的としたネイチャーゲームを知っていますか。

一九七六年アメリカのジョセフ・コーネル氏が考案・発表され、世界十五ヶ国に普及している。日本ネイチャーゲーム協会に所属する「遠州ネイチャーゲームの会」は原西部地区を中心に、季節ごとに自然体験活動を企画運営している。

自然とのふれあいプログラムが約百種類。例えば「木の葉のカルタとり」は落ち葉を各種一枚づつ集めて、遊びながら種類、特徴、種実の事等、話題を広げていく。いずれも年令に関係なく楽しめるので、子ども達はもちろん、自然の中で育った高齢者の方々にも楽しんでほしい。

孫とお年寄りがお弁当持って、近くの野山で自然相手のゲームを楽しみながら、動植物の観察をしたり、創作活動の出来る事が退職後の私のライフワークの一つとなっている。

コンフォートライフクリエイター
(今村純子)



事務局より

ちよつと気になる事務局のうら話

◆給食係

22回もそうだったが、またまた次回23回の給食当番の名前が分からない。事務局の怠慢申し訳ございません。22回の給食の時間に出だし、記録をとるために頼んだのだが、誰れか思い出せない。1月12日の職員会議で思い出してもらったのが6名。あとの生徒は独断と偏見で書かせてもらった。落ちてる方は、当日早めに出席して下さい。ごめんなさい。みんなが喜んで食べてもらえるように1と給食係は大変。開校日10日ほど前に給食当番による給食会議を開き、メニューを決める。食材はめだかの生徒でまかなえるものはまかない提供してもらおう。足りないものは仕入れる。仕入れ・調理・配膳片づけ・ゴミ処理まで。こうした裏方があっておいしい給食が食べられる。特にチーフの渡辺さんは、市場に出かけて通常の半値ぐらいで仕入れてくる。それもいい素材を。厨房では料理教室よろしく右往左往する男子生徒を調理の輪の中に導いていく。終れば厨房の中をきれいに掃除し、全てのゴミを持って帰って処理してくれる。「つみくさ」から厨房を借りている。ゴミひとつ残さないの配慮から。そう給食係は楽しいが大変なのである。あなたも手をあげてみたら。いい勉強になります。

◆職員会議

開校前に2回開きます。校長、教頭、用務員、事務局、委員(男女10人)。次回の授業内容と、それにともなう先生を選びます。科目、演題まで決めて連絡します。これらの内容は、「めだかのたより」に掲載できるように、2ヶ月前に開きます。あと開校日前に1度。「めだかのたより」については、情報、催し物など生徒からの提供を待っているが、なかなか集まらないので、事務局から個々の生徒に依頼し、書いてもらっています。

事務局で把握できているものは、事務局で書いています。原稿は、製作を担当してくれているエヌピー静岡企画室(FA X 053-431-0470) 照井泰子生徒へFA Xで送稿します。締切りのすぎているものが多く、これもまた難渋。刷り上がると、事務局榊原が生徒ひとりの顔が見えるようにと、かたくなに宛名を筆書きし郵送しています。さあ、あなたが住んでいる町のこと、関わりのある講演会や祭りなどの催事、泳ぎ回るあなた自身のこと。

2000年にはあと1年もありません。21世紀はあと700日ぐらい。あなたは何をもって21世紀に行きますか? 2月12日、13日には特別教室も開きます。あなたの夢や想いをどんどん送稿して下さい。20世紀に足あとを残して21世紀に行きましょう。

◆22回に提出していただいた「100文字の主張」小冊子にまとめて配布しましたが、まだ受け取っていない生徒は申し出て下さい。15部ほど残りがありません。

■六期の入校手続きを!!

六期は10年9月1日から11年8月31日までです。新入生・継続生ともに手続きが必要です。

新入生は入学手続きが必要です。同封の入校申込書に記入し入校金10000円を添えて提出してください。

在校生で、手続きがされていない方は自動的に名簿からはずれます。入校金納入をもって「めだかの学校生」となります。

■各地のたよりの掲載について

各地域でいろいろの催事があると思います。次回発行日は、5月ですので、4月20日までに事務局へファックス、又は封書にてご送付ください。

「めだかの学校だより」「100文字の主張」は、インターネット上にも掲載していきますので、見下さい。

▽アドレス

<http://plaza16.mbn.or.jp/~nb/m23.html>

めだかの学校事務局

F431-25001
静岡県引佐郡引佐町東久留女木
472-1111
「リンデンバウム」内 榊原幸雄
TEL・FAX

053545-0381
※「つみくさ」は学舎のみです。

すべての連絡・お問い合わせは、「事務局」にお願いいたします。